

まるっこ Marukko

Maruko Central Hospital Public Relations Magazine

feature article

特集
防



【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

「丸子中央病院 いま・むかし」

丸子中央病院 地域・グループ連携室 室長

高末真知子

私は丸子中央病院に昭和49年に入職した。昭和時代の丸子中央病院は、下町の和気あいあいとした雰囲気があった。丸山大司先生は朝5時から全病棟を回り、患者1人1人を診察していた。患者さんと患者家族、医師・スタッフは家族の様な感じであった。

昭和60年に丸子中央総合病院となり、昭和61年には330床に増床した。2階病棟に産婦人科もあり、常時10人位の新生児がいた。「当院でお産をした」「当院で生まれた」「嫁・娘がお産した」という職員や患者さん利用者さんも沢山いる。

平成12年介護保険が始まり居宅介護支援センターも開設された。介護保険が一般に知られていなかったため、利用者さんの自宅を訪問すると生命保険の勧誘と間違われたい、ケアマネって誰だと言われたりしながら根気よく介護保険の説明に回った。

平成25年8月14日、現在の病院に移転した。移転後より新病院の正面入口には「ひまわり会」のボランティアさんが午前中、患者さんを出迎えてくれている。ボランティアの



イラスト/森田 宏子

皆さんは、病院の元職員で旧病院を支えてくれた人たちだ。私たちの大先輩である。だから、患者さん対応はピカイチ、患者さんや利用者さんから頼りにされている。丸子中央病院の暖かいぬくもりのある雰囲気を大切にして、医療や介護を必要としている人たちに適切な援助を行うことにより、その人の生活を支えられる病院になっていければいいなと思っている。

Contents

特集防

地域のために防ぐ、絆を強める。
安全安心に欠かせない存在であり続ける。

上田広域消防本部 消防活動二輪分隊

1~4

連載第3回

丸子電鉄から読み解くー丸子の歴史
丸子は「まりこ」だった?!

5

トピックス
Marukko TOPICS

6

地域のために防ぐ、絆を強める。 安全安心に欠かせない存在であり続ける。

上田地域広域連合消防本部 広域救助隊 消防活動二輪分隊

上

田広域消防本部の
消防活動二輪分隊
は、現在6名の隊員
で構成されています。

この分隊で使用するバイクは「トライアル」と呼ばれ、高低差や傾斜が複雑なコースを、乗車したまま走り抜けることができます。消防庁「緊急消防援助隊」として指定されたバイクは全国で14台ありますが、そのうちの2台がこの上田にあります。昨年は、行方不明者の捜索の際に6回出動しました。トライアルバイクは普通のバイクと異なり、余分な装備はついていません。なぜなら、機動性を最重要視しているためです。

まずガソリンタンクですが、満タンにしても2ℓ入りません。燃費は約20km/ℓです。満タンにしても40km走るかどうかです。必要時に



発足から20年を経過、その運用制は多岐にわたり、二輪車の特性を活かした迅速な初動活動が行えることを最大の強みとしています。そして地域への絆を深める、各種イベントや防災訓練に参加。警防業務、予防業務の推進のために日々訓練をして地域の大きな役割を担う、消防活動二輪分隊の3名の方にお話をお聞きしました。

備え、ガソリンを携行することもあります。運転時はサドルに腰かけることはありません。普通のバイクの場合、高速域で曲がるには体を倒すことで対応できますが、トライアルバイクの場合はロックするまでハンドルを切らなければなりません。搜索時などは基本的に低速走行となりますが、止まりそうになっても足を地面につけず、「半クラッチ」の状態をキープし続けます。これには相応の握力を要します。

このようにバイクに乗れば誰でも操作できるわけではなく、いろいろな状況を想定した訓練が必要となります。冬の太郎山でも訓練しますし、(今回の取材で)ご覧いただいたように訓練ではいろいろな障害物を越えたり急坂を上り下りしたりしますので、1つのミスがけがにつながります。

こ

のため、訓練では「上達すること」と「安全性」のバランスが重要です。訓練を始めて間もない隊員はできることが増えてくるのが楽しく「上達」にウエイトを置いてしまいがちですので、安全第一を心がけさせます。

実際の捜索活動などの際は、現地近くまでトラックの荷台にトライアルバイクを積んで運搬します。山中や舗装されていない道など自動車では走れない場所こそトライアルは活躍します。持ち物も基本的には消防無線と応急処置用のキットなど、必要最小限です。

林野火災の場合は、私たちは偵察、情報収集、情報把握に徹します。特に重要なのは、防災ヘリに場所を示すことです。水を落とす地点が分かるよう、竿に赤い布をつけたものを掲げることで目印とします。



風向きによっては隊員も大量の水を浴びてびしょ濡れになることもあります。最近では、土砂災害など増加しており、出勤機会がいつあるかわからないこの心構えで訓練しています。また、全国でも数少ない緊急消防援助隊としてのトライアルバイクを所有しているという責任感も強く持っています。いざというときにトライアルバイクの特性である機動力を生かすためにも、技術向上と準備は日々怠らず、少しでも市民の皆様のお役に立てればと考えています。

■消防活動二輪分隊
中) 隊長 舟木 茂行(フナキゲユキ)
左) 班長 関根 恭平(セキネキョウヘイ)
右) 隊員 谷川 直光(タニカワナオミツ)

消防隊員の乗り物と言うと「消防車」「救急車」を思い浮かべます。上田広域消防ではそこに「トライアルバイク」が加わります。他にはない「消防活動二輪分隊」がどのような経緯でできたのか、上田地域広域連合消防本部 松井正史消防長にお聞きしました。

昭

和62年4月に、上田市住吉地区と神畑地区ではほぼ同時に大規模林野火災が発生しましたが、その際、途中で飲み水がなくなり、無線も使えなくなってしまう大変な苦勞をいたしました。業務として最大の課題だったのは情報収集ができずどこに行けばよいかわからなかったことです。

山林火災の際に情報収集し、応急救護活動に結び付けるようにするためにはどうすればよいか、重要なのは「機動性」と考えました。

私はもともとバイクが好きで、トライアル全日本選手権にも出場経験があります。そして、バイクは「機動力」を持ち

合わせています。好きなバイクを使って人助けができるのではないかとの発想に至りました。そして、バイク愛好者が集まりトライアル走行を始めたのが、分隊発足の原点です。

当初は私設の分隊で、個人所有のバイクで走行技術訓練を行いました。と同時に、周囲にトライアル隊導入の必要性を訴えてきました。

公的な場で消防トライアル隊として初めて披露されたのが平成4年、正式に組織化したのは平成5年4月でした。隊員4名、トライアルバイク4台での運用開始でした。現在は「消防活動二輪分隊」という名称で活動しています。バイクと一口に言っても、

例えば大震災があった場合は、オフロードバイクでは走行することはとても困難です。災害救助に資するためバイクは「トライアル」と呼ばれるものを配備しています。これは普通のバイクと比べても軽く、70度の傾斜でも登ることができ、機動性は比べ物になりません。

消防長となった現在は後進の育成を期待し見守っていますが、彼らには磨くべき技術はまだまだあると感じます。大きな被害があったときに1人でも多くの人命を救えるように日々精進してもらいたいと考えています。

バイクと一口に言っても、



上田地域広域連合消防本部 松井正史消防長

■消防活動二輪分隊の歴史

昭和62年4月	上田市2カ所で大規模森林火災発生
平成4年9月	上田市地震総合防災訓練の会場で、私設トライアル隊として初披露
平成5年4月	上田地域広域行政組合消防本部消防救助隊の訓令で定め、正式に組織化 隊員4名、トライアルバイク4台で運用開始
平成12年9月	長野県緊急消防援助隊出動車両として2台のトライアルバイクが登録
平成20年4月	内規・運用を一部改正し、トライアル分隊から「消防活動二輪分隊」に名称変更



【丸子中央病院 新築移転5周年】

～ 5年間のあゆみ ～

当院が上田市丸中丸子へ移転して早や5年が経ちました。

誰もが足を運べる“地域に開かれた病院”を目指し、地域のみなさんと共に歩んでまいりました。

この5年間に振り返ってみます。

2013年

- 電子カルテ導入
- 病院新築移転 新病院見学会には2,000人が来場
- アートワークビッグツリー

333個の木片に子どもからお年寄りまで思いの夢を描いてもらったアート作品。
(1F外壁面へ設置)



ビッグツリー

2014年

- 7:1看護基準を取得 ●研修センター開設
- 入院患者さんへスペシャルディナーの提供を開始
月に1度、山田康司シェフ監修・調理による食事を入院患者さんに提供。
- まるこベルシティまつり～光明観音堂りんご祭り～初開催
病院祭と地域のお祭りが一体となったお祭り



まるこベルシティ祭り

2015年

- 病院機能評価 3rdG Ver1.0 認定取得
- 人間ドック・健診施設機能評価認定取得
- 「救うのは君だ!!」PUSHプロジェクトin信州が発足
大阪ライフサポート協会と日本心臓財団がすすめるプロジェクトに参加。
地元の小中学校、警察署、一般企業などで胸骨圧迫とAEDの講習会を実施。



PUSHコース

- 株式会社ツルヤ様と共同で山田康司シェフの「いきいきレシピ」を発行
- レストラン「ヴァイスホルン」がオープン

2016年

- 地域包括ケア病棟開設

2017年

- 小児科常勤医師が着任
- 企業主導型保育園「あったかステーション わくわく」開設



あったかステーションわくわく

2018年

- 厚生労働省が指定するDPC対象病院(包括請求業務)に認定

●発行

特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸中丸子1771-1

●編集・進行

北澤 淳一(丸子中央病院)
安藤 あすか(丸子中央病院)

●アートディレクター

五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)

●デザイン

MOKUBA.CO.,LTD.

●お問い合わせは…

丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111

月曜日から金曜日、10時～17時(祝日・休日・年末年始を除く)



まるこベルシティまつりで人気のミニ電車にのこり

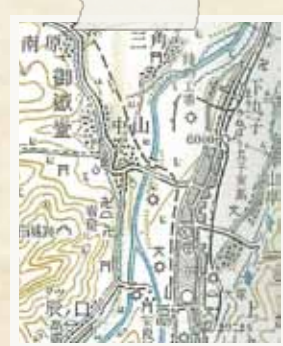
9号制作中には、すっかり丸子で恒例のお祭りとなったまるこベルシティまつりが開催されました。子どもたちに人気だったのがこのミニ電車！広報誌を仕上げなければと思いつつもこの日は、昔、丸子を走っていた車両に乗せていただきました。現在は、セレスホルの前にこの車両が展示されているのでみなさんどこかで見た覚えがあるかもしれませんね。

編集後記

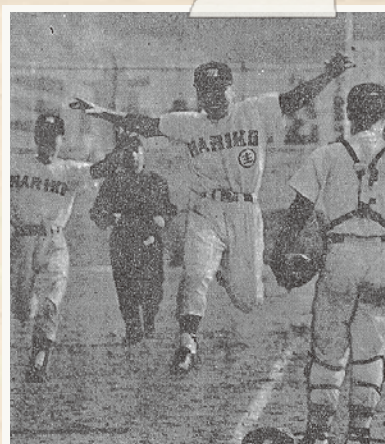
前号(MARUKKO VOL.08)にて丸子鐘紡駅から鐘紡工場までの引込線の地図を掲載しましたが、そこに「にしまりこ」の文字があったことにはお気づきになったでしょうか？昭和30年代まで、丸子は「にしまりこ」とも読んだのです。



「まるこ町勢要覧 1992 町制80周年記念」に掲載の写真。「にしまりこ」と書かれた駅名表示

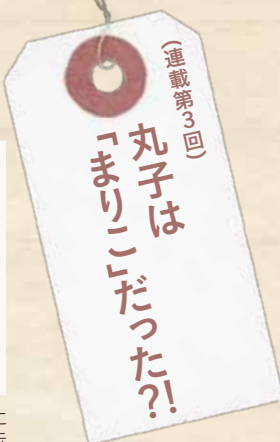


この地図は「上田古地図帖」より、1962年(昭和37年)の上田小泉地図の抜粋です。駅名はひらがなで書かれており、「にしまりこ」「にしまりこまち」の記載があります。



信濃毎日新聞 昭和36年10月17日9面より。北信越大会決勝時のユニフォームには「MARUKO」のロゴ

かつて丸子町(現・上田市)は製糸産業が盛んで、物流・旅客両面で人の動きの多いところでした。このため、長野県内でも早い時期に鉄道が敷設された場所です。丸子の歴史をさかのぼります。



丸子鉄道、上田丸子電鉄丸子線、鐘紡丸子工場に関する情報を募集いたします。皆様の情報をお待ちしております。連絡先 丸子中央病院 経営企画課 【電話：0268-42-1136】

まず、「にしまりこ」という読み方で、上田市のホームページでは「かつて、この土地が丸子(にしまりこ)皇太子の領地であった歴史に基づいて命名されました。」としています。昭和36年、そんな状況を変える大きな出来事が2つありました。

越高校野球大会の決勝戦が松本市で開催され、見事に丸子実業高校(現・丸子修学館高校)が優勝しました。秋の北信越大会優勝は、翌年の春の選抜大会出場につながります。

昭和36年9月3日丸子タイムスの社説は「にしまりこか まるこか」と題して「丸子町制五十周年に当り町名の呼称統一がその事業の一つとなっている。」と書き出しています。記念の年に合わせ、呼称を統一しようという動きが出ていたのです。

『丸子修学館高校百年史』の中で、上丸子在住の酒井昭水(てるみ)様が「町を挙げての応援態勢の中で、初の全国大会の檜舞台、丸子をマリコと読んでくれるか?が、町議会の話題となり、議決を経てユニフォームを「MARUKO」に変え、歴史的なデビューを果たした。」と寄稿されています。この件につき酒井様にお聞きしたところ、町の職員に直接確認して寄稿されたそうです。

以上のことから昭和36年が「にしまりこ」が「まるこ」に変わった契機と言えそうです。「まるこ」に読み方が統一されてから五十数年になりますので、丸子在住でも「にしまりこ」という呼称があったことを知らない人が多くなってきました。この経緯につきエピソードや資料をお持ちの方からも情報を募集いたします。皆様のご協力をお願い致します。